

# パートナー委員会ニュース

2018年度



毎日頑張っている組合員の皆さんにもっと組合のことを知ってもらいたい。自分のこと、大切な仲間のこと、守るには知るべき大切なことがあります。「知る」参加、「いう」参加、「実践する」参加、「役割を持つ」参加。イキイキと働ける職場を一緒に作り上げていきましょう！

今回の地震、台風で被災された組合員の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

思いがけない災害に見舞われ、さぞご心痛のことでしょう。

どうかお心を強くお持ちいただき、一日も早い復旧と、被災された皆さまが日常生活に戻れるよう、お祈りしております。

アークランドグループ労働組合 中央執行委員長 安達 義幸

10月16日(火)に開催される定期大会の議案書を9月21日(金)にデポ便で発送しました。活動報告や会計、規定の改定などみなさんにとって大切なことが掲載されています。まずは“開いて読んで(これに抵抗あるのは十分承知)”**「知る参加」**をしてみましょう。



組合規約を見直す案があるのね！

団体交渉の報告もわかりやすく掲載されてる！

私たちが参加した組合活動が掲載されているわ！

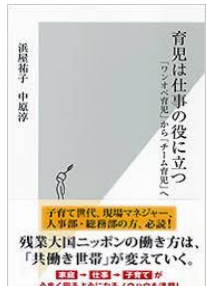
会社と締結した労働条件の協定書も掲載されている！

## チーム育児のつくり方～脱ワンオペ育児～

先日、プライベートで「チーム育児のつくり方」というセミナーに参加してきました。浜屋さんは東京で男の子と女の子がいる核家族。自身は北海道釧路市の出身で、旦那さんは沖縄県出身。親族のサポートを受けられない状況の中で、初めての子育てを経験。初めは「自分が頑張ればいってことでしょ」とワンオペ育児を続け、ある日気力も体力も限界に達した時に、気がついたらソファで旦那さんを猛烈に説教していたいそうです。(わかるな～)それから、旦那さんと色んな話し合いをするようになり、ママ友さんとのネットワークも少しずつ構築していきました。

ある日、浜屋さん自身が急性盲腸になり3日間の緊急入院。旦那さんに早退を依頼し、子ども達の習い事の送迎もママ友さんにバトンタッチ。子供が急病の時のことはいつも頭にあるのに、自身の病気のことは頭になかった。チームで育児している大切さを改めて感じたそうです。

私はというと…初めて会うママさんと普段心掛けていることを発表し合いました。「母親でない…という気持ちを捨てる」「夫や子どもにありがとうを心を込めて伝える」など、なるほどな～という意見もありましたが、個人的には「ほこりで死なない」「(疲れたときは)具合の悪いフリをする」がツボに入りました(\*^\_^\*) (加藤)



浜屋 祐子さんの著

発行責任者：安達  
編集責任者：加藤



アークランドグループ労働組合は  
かわいたかの子&田村まみを応援し